



かいた 高根小学校だより 第6号 令和5年9月1日

「学校教育目標」かしこく（知）・なかよく（徳）・たくましく（体）

児童数 男子 84 名 女子 84 名 計 168 名



石巻市震災遺構大川小学校を訪ねて

校長 原 政幸

小さな叢からコオロギの鳴く声が聞こえて、暑さの余韻の中で 2 学期が始まりました。この夏休みは校舎、体育館、プール等の改修工事が行われました。工事に向けての物品移動や廃棄作業ならびに校地への立ち入りの制限へのご協力、ありがとうございます。工事は着実に進んでおります。10 月中の完成が今から楽しみです。

さて、8 月の上旬に宮城県石巻市震災遺構大川小学校を訪ねました。大川小学校は、校門からすぐのところにも多目的室のホールがあり、そこにつながる形で 1・2 年生の教室があります。中庭を隔てて 3～6 年生の教室が半円形に配置されている造りになっています。野外音楽ステージ等もあり、たいへんモダンで美しい学校であったことが分かります。この小学校が 2011 年 3 月 11 日、東日本大震災による津波の被害に遭い児童 74 名、教職員 10 名が犠牲となりました。

語り部ガイドさんの話を聞きながら、校庭から校舎全体を見ることができました。大きく壊れた教室や断絶された体育館への通路、崩壊した野外ステージの屋根等に当日の津波の恐ろしい威力を見ました。

震災当日、地震発生 14:46 から約 3 分後、全校の児童、教職員は校庭に避難しています。その後、14:52 に大津波警報が発令されています。そして、学校に津波が到達したのが 15:37 です。避難から津波到達までの 50 分弱の時間、なぜ、校庭に待機していたのでしょうか。校庭の先、歩いて 2 分もかからないところには、児童が椎茸栽培の体験学習を行っていた裏山があります。この山の傾斜はわずか 9 度、山には 200 人はゆうに待機できるスペースがあります。「山に逃げよう」と訴えた子どももいたということです。

語り部ガイドの方が、私たちに「この学校の多くの子どもたちは大人になれませんでした。あなたの学校の子どもたちを大人にしてあげてください。」と話されました。この言葉が心に残っています。想定外という概念はない、災害が生じたら、子どもたちの命を守るために、そのときにとれる最善を尽くす、そのための決断をしていく。この経験から改めて強く決意しました。

今日、9月1日は、防災の日です。1923年9月1日に起きた関東大震災から100年。2つの震災からの教訓を忘れない日にします。

◇ 校庭からつながる裏山にある場所。ここからは大川小学校が一望できます。白い木札が津波の到達地点、この場所までは津波は到達しませんでした。



貴重な 交流と体験 ができました



◇市議会議場で質問する石坂さんと山口さん



「子ども議会」 7月27日

市内小学校の6年生代表が一日議員となり、市民生活と行政との関わりや課題について考え、自らの言葉で質問や意見を発表する体験を通して市政や議会の仕組みを学ぶ「子ども議会」が行われました。本校からは、石坂さん、山口さんが議員となりました。石坂さんは、学校の電気代を節約するための工夫や提案を谷ヶ崎市長さんに質問しました。山口さんは、子どもを安心して産める環境をつくるための提案を中村教育長さんに質問しました。

2人は、日高市議会議場にて、堂々とした態度で立派に質問していました。市長さん、教育長さんからは、質問の意図が優れているとほめられていました。2人の提案が実現するかもしれません。

「広島市平和記念式典児童派遣事業」8月5日・6日

この事業は、子どもたちが、戦争の悲惨さと平和の尊さを認識し、未来へ向かって平和な社会の尊さを伝えていくことを目的としています。市内の各小学校6年生から1人が代表となり6人の児童が広島市に派遣されました。本校からは、岩下さんが代表になりました。

岩下さんは、初日に平和記念資料館の見学や平和記念式典への参加など、他校の代表児童との交流を深めながら、貴重な体験をしました。8月24日市役所での報告会では、2日間の体験をもとにした立派な感想を発表しました。



◇報告会で感想を発表する岩下さん